

約9万円かかるワクチン
(9価ワクチン)が
無料で接種できます

無料で接種できるあなたへ大切なお知らせです

HPVワクチン (子宮けいがん予防ワクチン) について 知ってください



大阪市ホームページ
「子宮頸がん予防(HPV)
ワクチンの接種について」

発行：大阪市健康局健康推進部健康づくり課 問合せ先：がん検診専用電話 (06) 6208-8250

子宮けいがんってなに？

HPV(ヒトパピローマウイルス)への感染が
原因でかかるがんのこと

子宮けい部という子宮の入口に近い部分にできるがんです。ワクチン接種を受けることで、HPV感染を防ぎ、子宮けいがんを予防することができます。子宮けいがんは日本では毎年1.1万人の女性がかかっており、さらに毎年2,900人の女性が亡くなっています。子宮けいがんと診断される人は20歳代から増えはじめ30歳代までに治療により子宮を失う人が1年間で約1,000人います。



よくある質問



ワクチンの効果

HPVワクチンは、子宮けいがんの原因の50~90%を防ぎます。このワクチンで、がんになる手前の状態(前がん病変)が実際に減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かっています。ワクチン接種を1万人が受けたと、受けなければ子宮けいがんになっていた約70人が子宮けいがんにならなくて済み、約20人の命が助かる、と試算されています。

なんで感染するの？どうやってなるの？

HPVウイルスは、一度でも性的接触の経験があればだれでも感染する可能性があります。女性の多くが「一生に一度は感染する」といわれています。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えるものですが、一部の人はがんになってしまうことがあります。

9価ワクチンとは？2・4価との違いは？

国内で承認されている HPV ワクチンには2価、4価、9価の3種類があります。2価ワクチンは子宮けいがんの主な原因となる HPV16・18型に対するワクチンです。4価ワクチンは16・18型に加え、尖形コンジローマの原因となる6・11型の4つの型に対するワクチンです。令和5年4月より定期接種が開始された9価ワクチンは、さらに5つの型31・33・45・52・58型に対するワクチンであり、より予防効果が高いと期待されています。

9価

31・33・45・52・58型
の予防が主です

+

4価

6・11型
の予防が主です

+

2価

16・18型
の予防が主です

ワクチンが原因となったものかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのはワクチンを受けた1万人あたり5~7人です。接種後に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。接種後に気になる症状が出たときは、まず接種した医師や周りの大人に相談してください。

ワクチンのリスク

接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。ただ、これらの症状は徐々におさまるものです。ワクチンの接種後には、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさといった多様な症状が報告されています。

無料で接種ができます！

ワクチンの定期接種は小学6年生から高校1年生相当の女性が対象です。

標準的な接種年齢は中学1年生です。

ワクチンを接種するまで

1 委託医療機関に予約

一言から、HPVワクチン(子宮けいがん予防ワクチン)が接種可能な医療機関を選び、直接お電話のうえ、ご予約下さい。

医療機関一覧



2 当日の持ち物

- 1, 市民であることを確認できるもの(健康保険証など)
- 2, 母子健康手帳(ない場合は医療機関にご相談下さい)
- 3, 予約票(大阪市ホームページからダウンロードすることも可能です。)

予約票ダウンロード



3 ワクチン接種完了！

2回目と3回目は、原則として1回目と同じ種類のワクチンを予約し、忘れず接種してください。

ワクチン接種を受けていても、子宮けいがん検診は必要です。20歳になつたら、2年度に1回検診を受けましょう。

一般的な接種スケジュール

シルガード9 9価

1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合

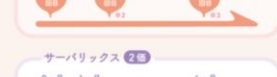


1回目の接種を15歳になってから受ける場合



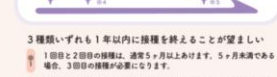
ガーダシル 4価

0ヶ月 2ヶ月 6ヶ月



サーバリックス 2価

0ヶ月 1ヶ月 6ヶ月



3種類いずれも1年以内に接種を終えることが望ましい

1回目と2回目の接種は、通常5ヶ月以上あけます。5ヶ月未満で6ヶ月、3回目の接種が実施されます。

2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2ヶ月後と6ヶ月後に行き、2回目は1回目から1ヶ月以上(0.2)、3回目は2回目から3ヶ月以上(0.3)あけます。

2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1ヶ月後と6ヶ月後に行き、2回目は1回目から1ヶ月以上(0.2)、3回目は2回目から5ヶ月以上、2回目から2ヶ月以上(0.5)あけます。



ワクチンに関する相談窓口(厚生労働省)

電話番号：0120-331-453 / 相談窓口：厚生労働省 (mhfw.go.jp)

※HPVワクチン(子宮けいがん予防ワクチン)を含む、予防接種全般についての相談窓口です。

このリーフレットは令和6年3月時点の情報です。最新情報はホームページをご覧ください。